

「校歌等に歌われた上田城と真田幸村」(NO3)

関口貞雄(48期、関西同窓会)

(9) 終戦とその後の歌

昭和20年(1945)8月15日の終戦を境に教育内容が全く変わり、武が影を潜め、文を謳歌する時代となった。

9-1 学芸祭の歌 (作詞 山極真平 作曲 兎束武雄)

昭和21年(1946)11月、学芸祭が初めて開催され、平和の到来と文化の復活を歓ぶ心を歌っている。武の真田と上田城は全く登場しない。

- 1 あこがれの日はめぐり来て 人間の命を歌ふなり
文芸の道遠くとも 我が学園に銀燭の 花と輝く祭の火
いざ進まばや 新生の旗のもと
- 2 新しき日のめぐり来て 科学の光讃うなり
真理の海は深くとも わが学園に金楫の 波ときらめく祭の火
いざこぎ出でむ 自由の旗のもと

9-2 上田讃歌 (作詞 町田太郎 作曲 兎束武雄)

- 1 悲しむ勿れ 青春の 夢の双葉に 霜あれど
われたくましく右手高く 燃ゆる希望のかがりあり
望み 望みあり 松尾台上 理想あり
上田 上田 上田 上田
- 2 憂ふる勿れ こん濁の 巷に荒風 荒ぶとも
われ駆る白馬 雲けりて 銀のひづめの行くところ
光 光あり 松尾台上 正義あり
上田 上田 上田 上田

9-3 上田高校生の歌 (作詞 山辺謙一 編曲 兎束武雄)

昭和33年(1958)長野県上田高等学校と改称されたが、その前に作られた歌である。ここに戦後初めて松尾城(上田城)が登場する。

- 1 浅間の聖火雲となり 千曲の水に映える時
自由の鐘のたからかに 輝く母校我が松尾

3 朝光きよき松尾城 月光うつす堀の水
栄枯の路に露ふみて 真理の光求めゆく

9-4 応援歌 No. 3 (作詞、作曲 町田太郎)

この応援歌で武の真田が完全復活し、選手の奮起を促している。
昭和 30 年 (1955) 頃、上田松尾高校の時代に作られた。

1 伝統の花りょうらんと 松尾が丘は時じくの
春を誇れり いざやいざ 凱歌をあげて地軸をうたん
上田 上田 上田 上田 勝利の上田
2 ああ堂々の陣を張る 信濃の勇者我が上田
打てよ走れよ虹を呼べ 真田の血潮伝統に燃ゆ
上田 上田 上田 上田 勝利の上田

9-5 応援歌 No. 4 (作詞 金澤明子 作曲 関 哲夫)

昭和 28 年 (1953) に男女共学となって以来、歌の作詞者に初めて女性が登場した。

1 立てよいざ立て 信濃の勇者 同胞共に 手をとりにて
長き歴史のこの旗のもと いざや歌わん 勝利の歌を
2 火を吹く浅間 躍れる千曲 我らの血潮 湧きたちて
緑もえたる 今日ここに ついに来りぬ 戦いの日が

9-6 応援歌 No.5 (作詞 矢島勝美 作曲 藤沢章彦)

真田は勝利のシンボルとして冒頭から登場している。

1 真田勇士の 血を継ぎし 上田健児の底力
あふるる闘志 躍る胸 今戦ひの今戦ひの 陣を組む
ふるへ ふるへ ふるへ ふるへ 上田高校
2 烏帽子の岳に朝日はのぼり 若人の胸 希望燃ゆ
日頃鍛えし この腕 今戦ひの今戦ひの 旗建てん
ふるへ ふるへ ふるへ ふるへ 上田高校
3 太郎の峰の さかまく霧に 進軍の声 いさましく
その意気高く 天を衝く 今戦ひの今戦ひの 時きたる
ふるへ ふるへ ふるへ ふるへ 上田高校

* おわりに

以上で上田中学校、上田松尾高校、上田高校の歌の歴史を振り返り、そこに登場する真田昌幸、幸村父子、上田城（松尾が丘）を抜粋し、検証した。

戦時中に学んだのは 48 期と 49 期が最後で、懐かしのメロディとなった「寮歌」「凱歌」「応援歌 No.1」「応援歌 No.2」を今でも時折口ずさむことがある。これ等の歌は時代の動向を反映しており、初期は文武両道、質実剛健を掲げ、戦時色が濃くなるにつれ、文が姿を消し、武のみが偏重された。戦後は武が影を潜め、文が復活したが、戦後の復興が進み高度成長期になると、再びバランスのとれた文武両道が唱えられた。

NHK 大河ドラマ「真田丸」の人気の影響で、今後母校関連の歌が作られることがあれば、真田も上田城も歌詞を華々しく飾ることになるであろう。

同じ上田市内の他校を比較して見ると、上田染谷丘高校は元女子校で、上田千曲高校は元商業学校だったので、共に武には縁が薄く、上田東高校（旧小県蚕業学校）は創立者三吉米熊が長州の出身者で、蚕業による産業立国を目的に設立された学校なので、校歌に武は強調されず、三吉の死後の大正 15 年（1916）4 月三吉米熊銅像が作られ、それを記念して作られた記念歌の 2 番に登場するのみである。

松尾城頭に聳え立つ 蚕種の健児の意気高し

上田蚕糸専門学校（現信州大学繊維学部）の校歌も蚕糸業による産業立国と報国が歌われ、真田も上田城も姿がない。

（以下、NO4 へ）